

スポーツ振興課の主な事業の取組状況と今後の取組について

愛知県スポーツ
推進計画基本施策
I・V

1 あいちスポーツコミッションの取組について

スポーツ大会を招致、育成し、地域活性化につながる取組を進めるため、県内市町村、スポーツ関連団体、マスメディア、大学、企業等と連携する仕組みとして「あいちスポーツコミッション」を設置し、地域の関係者が一体となり取組を推進。

(1) フリーマガジン・Web サイト・SNS による情報発信

<フリーマガジン「aispo!」>

- ・ 県内で開催されるスポーツ大会やプロスポーツチーム・実業団チームの活動などを紹介
- ・ 年4回の発刊で、県内の名鉄主要各駅、スポーツ施設やスポーツショップ等で配布

<Web サイト・SNS>

- ・ 県内のスポーツ大会情報やプロスポーツチーム・実業団チームの情報を発信
- ・ Facebook、X(旧 Twitter)、Instagram でリアルタイムに配信
- ・ スポーツ大会の現地レポートやフリーマガジン「aispo!」と連動した記事をwebに掲載



フリーマガジン「aispo!」

(2) プロスポーツチーム等との連携

県内に本拠地を置くプロスポーツチーム、実業団チームと連携し、スポーツ振興や地域課題の解決に向けた様々な取組を推進。

<2023年度の主な取組>

(愛知県庁本庁舎公開イベント)

本庁舎正面玄関前にて、豊田合成ブルーファルコンの選手によるトークショーやハンドボール体験教室、コラボ缶バッジ作り体験等のイベントを実施。



本庁舎公開イベントの様子

(親子観戦企画)

中日ドラゴンズ、名古屋グランパス、トヨタヴェルブリッツ、名古屋ダイヤモンドドルフィンズ、ファイティングイーグルス名古屋等と、県内の小中学生やその保護者等を対象とした観戦企画を実施



観戦企画PRポスター

2 スポーツ大会を活用した地域振興について

愛知県スポーツ
推進計画基本施策
I・V

(1) アイアンマン 70.3 東三河ジャパン in 渥美半島

アイアンマンレースは、一人の競技者が水泳、自転車、ランニングの3種目を連続して行うトライアスロンの世界的なシリーズ戦。2023年6月に「アイアンマン 70.3 東三河ジャパン in 渥美半島」の第1回大会を開催。2010年から2020年まで開催された「ア

「アイアンマン 70.3 セントレア知多半島ジャパン」については新型コロナの影響等により開催を休止中。

<大会概要>

- ・ 開催日程：2023年6月8日（木）～11日（日）
※ 競技開催日は6月10日（土）
- ・ 主催：アイアンマン 70.3 東三河ジャパン in 渥美半島実行委員会（愛知県、田原市、豊橋市、田原市商工会、渥美商工会、豊橋商工会議所、（一社）渥美半島観光ビューロー、（一社）豊橋観光コンベンション協会、田原市スポーツ協会、（公財）豊橋市スポーツ協会、（一社）愛知県トライアスロン協会、（一財）東三河スポーツ地域振興財団）
- ・ コース：田原市、豊橋市 合計約 113.1km（スイム 1.9km、バイク 90.1km、ラン 21.1km）
- ・ エントリー数：761人（国籍別：29カ国（地域）105名の外国籍者、現住所別：国内 38都道府県、海外 19カ国（地域）出身者）
- ・ 参加者数：674人、完走者数：635人（完走率 94.2%）
- ・ 観戦者数：2万人



<県の取組>

- ・ 観戦・観光ガイドの作成・配布
- ・ SNSによる情報発信
- ・ Instagramハッシュタグ投稿キャンペーンの実施
- ・ アワードパーティーにおける地域特産品の提供
- ・ 大会PRムービーの制作 など



<次回大会>

2024年大会は延期し、2025年以降開催を目指す。

アイアンマン 70.3 東三河
ジャパン in 渥美半島

<今後の課題>

- ・ 組織体制の整備やコースの見直し
- ・ 大会概要及び選手募集発表の早期化による選手の確保

(2) 奥三河パワートレイル

林道・砂利道・登山道などの未舗装路を走るトレイルランニング大会。アップダウンが厳しい本格的な中距離レースで、2015年から開催し、2023年は開催時期を秋に変更し開催。

<大会概要>

- ・ 開催日程：2023年9月30日（土）、10月1日（日）
※ 競技開催日は10月1日（日）
- ・ コース：茶臼山高原からふれあいパークほうらいまでの約 70km、累計標高差（登りの高さの合計）約 4,000m
- ・ エントリー数：420人
- ・ 出走者数：382人（27都道府県）、完走者 245人（完走率 64.1%）
- ・ 観戦者数：約 5,000人



奥三河パワートレイル

< 県の取組 >

- ・ エイドステーションでの奥三河の特産品の提供
- ・ 奥三河産のスギによる完走賞、チェーンソーアートの副賞トロフィーの制作
- ・ 大会コースにおける案内表示板の設置
- ・ SNS 等を活用した大会や奥三河の魅力の PR
- ・ スタート会場、トレラン EXPO の盛り上げ など



チェーンソーアートで作製したトロフィー（トンビ）

< 次回大会 >

調整中

< 今後の課題 >

- ・ 大会運営に係る市町村の負担軽減
- ・ 開催地域での盛り上げ
- ・ 出場者数の確保

(3) FIA 世界ラリー選手権 (WRC) ラリージャパン

国際自動車連盟 (FIA) が 1973 年に創設したラリー競技の最高峰に位置する世界選手権。F1 と同様の人気を誇り、2023 年は欧州を中心に世界で 13 戦開催され、最終戦を 11 月に愛知・岐阜にて開催した。2023 年から豊田市が主催となり開催。

< 大会概要 >

- ・ 開催日程：2023 年 11 月 16 日 (木) ～19 日 (日)
- ・ 参加台数：35 台
- ・ 観戦者数：536,900 人※有料観客席、イベント会場、沿道応援観客数の合計
- ・ 開催場所：豊田スタジアム及び周辺自治体の一般公道・林道・農道 (岡崎市・豊田市・新城市・設楽町・中津川市・恵那市)
- ・ サービスパーク：豊田スタジアム
- ・ 興行主体：ラリージャパン 2023 実行委員会 (豊田市、恵那市、トヨタ・モータースポーツクラブ、(特非) M.O.S.C.O、豊田まちづくり (株))
- ・ 協力：ラリージャパン 2023 関係自治体連携会議 (開催場所の自治体、スーパーバイザー：愛知県・岐阜県、アドバイザー：名古屋市、長久手市)



ラリージャパン
オープニングセレモニー

< 県の取組 >

- ・ 大会情報等を掲載した観戦・観光ガイドブックの作成・配布
- ・ ラリー車両等の展示による大会 PR 及びデジタルサイネージ広告による歓迎装飾の実施 (名古屋市、中部国際空港)
- ・ パブリックビューイングイベントの開催 (中部電力 MIRAI TOWER)
- ・ 学生を対象としたサービスパーク見学会の開催
- ・ 表彰台登壇者 (1～3 位) へ知事賞、あいちの花で作った花束の贈呈
- ・ 会場における PR ブースの設置 など



パブリックビューイング
会場の様子

<次回大会>

- ・ 開催日程：2024年11月21日（木）～24日（日）（予定）

<今後の課題>

- ・ 広報・PRによりさらなる観戦者の増加
- ・ 開催地域以外での機運醸成・盛り上げ

（4）第4回世界弓道大会

2024年2月に第4回世界弓道大会を日本ガイシホール（名古屋市南区）で開催。共催として大会の盛り上げに関わるほか、大会を活かし、武家文化ゆかりの観光資源などの愛知の魅力を、大会参加者を通じて世界に発信し、地域の活性化に寄与。

<大会概要>

- ・ 開催日程：2024年2月29日（木）
- ・ 開催場所：日本ガイシホール 特設弓道場
- ・ 主催：国際弓道連盟
- ・ 共催：公益財団法人全日本弓道連盟、愛知県、名古屋市
- ・ 参加：国際弓道連盟加盟国のうち、25の国と地域
- ・ 観覧：無料(400席)
- ※ 開催実績：第1回2010年東京、第2回2014年パリ、第3回2018年東京



世界弓道大会
ポスター

<県の取組（予定も含む）>

- ・ SNS、県ホームページ、aispo! 記事掲載等により大会をPR
- ・ 大会当日に会場で、愛知のブランド米（「愛ひとつぶ」）を使用した「おにぎり」をふるまい、来場者をおもてなし（JA あいち経済連が協力）。
- ・ 大会関係者等に向けた、愛知・名古屋の歴史文化を体感する「武道ツーリズム造成事業」（中日新聞社企画）への協力

（5）RALLY 三河湾

国内最高峰のラリー競技である JAF 全日本ラリー選手権の1戦として蒲郡市内を中心に初めて開催。新城ラリーのレガシーを引き継ぎ、三河地方でのラリー文化のさらなる普及と地域活性化を目指す。

<大会概要>

- ・ 開催日程：2024年3月1日（金）～3日（日）
- ・ 開催場所：ラグーナ蒲郡地区（メイン会場）及び周辺自治体の一般公道・林道等（蒲郡市、岡崎市、豊田市、幸田町）
- ・ 主催：ラリー三河湾実行委員会（構成団体：MASC、愛知県、蒲郡市、トヨタ自動車株、近畿日本ツーリスト株、名古屋テレビ放送株、ラグナマリーナ株、ラグーナテンボス株）
- ・ オブザーバー：岡崎市、豊川市、幸田町

<県の取組>

- ・ デジタルサイネージ広告等による歓迎装飾（名古屋駅、JR 車内、高速 SA 等）
- ・ ラリー車両の展示及び大会 PR の実施（NEOPASA 岡崎）
- ・ ラリーカー約10台が栄や名古屋駅などをパレードする RALLY 三河湾パレード in 名古屋の開催
- ・ 大会の様子をライブ配信

- ・ 大会情報を掲載した観戦・観光ガイドブックの発行及びWebへの掲載
- ・ 優勝したドライバー・コドライバー（ナビゲーター）に知事賞、あいちの花で作った花束の贈呈
- ・ 会場におけるPRブースの設置 など

（6）新城ラリー（終了）

JAF 全日本ラリー選手権の1戦。2004年から新城市において開催されてきたが、競技主催者の申入れにより、2023年3月の第20回大会をもって終了。

2024年2月11日（日）に、これまで新城ラリーを応援してくれた関係者及びファンに感謝を伝える「新城ラリー大感謝祭」を桜淵公園で開催。

<第20回大会概要>

- ・ 開催日程：2023年3月3日（金）～5日（日）
※ 競技開催日は4日（土）、5日（日）
- ・ 開催場所：県営新城総合公園（メイン会場）鬼久保ふれあい公園、千万町楽校周辺（サテライト会場）及び一般公道・林道等（新城市、岡崎市）
- ・ 主催：新城ラリー実行委員会（MASC、愛知県、新城市、近畿日本ツーリスト（株））
- ・ 出場台数：72台
- ・ 観戦者数：26,500人（延べ人数）



セレモニアルスタート

<県の取組>

- ・ 鬼久保スペシャルステージ（SS）などにおける大会の様子をライブ配信
- ・ 大会情報を掲載した観戦・観光BOOKの発行
- ・ 優勝したドライバー・コドライバー（ナビゲーター）に知事杯、あいちの花で作った花束の贈呈 など



知事杯、あいちの花の贈呈

<2023年度の取組>

- ・ 新城市及び新城ラリー支援委員会の主催により開催の「新城ラリー大感謝祭」を支援
- ・ 開催日程：2024年2月11日（日）

（7）マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知

世界最大の女子マラソンである名古屋ウィメンズマラソン、名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン、名古屋シティマラソンで構成される大会。2014年からは、競技用車いす（レーサー）による女性のためのホイールチェアマラソンも併せて開催しており、2023年の大会で10周年を迎えた。

<大会概要>

- ・ 開催日程：2023年3月10日（金）～12日（日）
※ 競技開催日は12日（日）
- ・ 出走者数：名古屋ウィメンズマラソン 12,732人（※）
名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン 14人
名古屋シティマラソン 7,999人
※このほか、オンラインマラソンに 1,472人（国内752人、海外720人）がエントリー。海外からのエントリー数



名古屋ウィメンズマラソン

は34の国と地域から1,042人（海外在住の日本人含む）。

- ・ 観戦者数等：マラソン EXPO 来場者 91,632 人、沿道観戦者約 20 万人（※実行委員会発表）、ボランティア 5,851 人

< 県の取組 >

- ・ マラソン EXPO における愛知の特産品等の PR
- ・ あいちの花の PR（フィニッシュレーンの装飾、優勝者等へのビクトリーブーケの贈呈など）
- ・ エイドでの愛知の特産品の提供
- ・ 名古屋駅等における歓迎装飾
- ・ ホイールチェアマラソン10周年記念リーフレット等の作成
- ・ 特設 Web サイトの制作及び大会のライブ配信 など



名古屋ウィメンズ
ホイールチェアマラソン

< 2023 年度大会 >

- ・ 開催日程：2024 年 3 月 8 日（金）～10 日（日）

< 今後の課題 >

- ・ ホイールチェアマラソンの盛り上げ（参加者及び観戦者の増大）
- ・ 海外からの参加者に向けた愛知の更なる魅力発信

愛知県スポーツ
推進計画基本施策
IV・V

3 あいちスポーツイノベーションプロジェクトの推進について

2025 年の愛知国際アリーナ開業、2026 年のアジア・アジアパラ競技大会開催などを起爆剤として、スタートアップ等との連携を図り、新たなビジネスチャンスの創出やスポーツの成長産業化、スポーツを通じた地域の活性化を目指す。

< コンソーシアムの概要 >

- ・ 名称：Aichi Sports Innovation Axle (AiSIA (アイシア))
- ・ 設立時期（予定）：2024 年 6 月頃
- ・ 主な参画団体：大学、スポーツチーム、企業、スポーツ関連団体等
- ・ 事務局：株式会社中日新聞社、愛知県（あいちスポーツコミッション事務局）

< 2024 年度事業の内容（県事業実施分） >

(1) コンソーシアムの設立・運営

- ・ 推進母体となるコンソーシアムの設立・運営
- ・ スポーツチームのニーズ調査等、プロジェクト推進に必要な調査の実施

(2) 講演会等の開催

- ・ スポーツ産業を支える人材育成を目的とした大学生等を対象とする講演会・ワークショップ等の開催

(3) スポーツチーム等との連携共創事業

- ・ 集客等スポーツチーム共通の課題解決の取組に向け、事業提案を募集・選定し、実証事業を実施

(4) スポーツと他産業による地域課題解決共創モデル事業

- ・ スポーツチーム等が、民間企業と連携し展開する地域課題解決に資する取組を、モデル事業として実施

※ コンソーシアム関連事業としては、株式会社中日新聞社が主体となり、障害・身体の制約を越えたアバターでメタバース上のマラソン大会開催及び AI によるスポーツ診断スポットの提供も展開予定。